

科目名 (英)	美容実習Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯野 井坂 半沢 佐々木
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
				曜日・時間	火・水・木曜日いずれかの1.2限か3・4限		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 美容専門学校で教育に10年以上関わって来ました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許習得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役に立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。 目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない、技術・理論を学ぶ。 概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身に着けながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許習得に欠かせない重要な基本的なスキルである。							
【授業を通じての到達目標】 規定タイム内で、未完成とならない作品を作ることが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 国家試験で使用する教材(初回持ち物参考)				【授業外における学習】 前回授業内容の復習。前回到達目標に到達できなかった場合は復習しながら到達しておく。(欠席・公欠などの場合も同様)また公欠の場合は満点採点はせず課題提出により小テストの配点分評価をする。			
回	授業概要					テスト配点	
1	授業の内容説明および作業準備、CUT基礎技術の確認、作業手順①						
2	作業手順の導入②						
3	作業手順の導入③						
4	手順全体の復習						
5	フロントCUTまでの手順を反復					5点	
6	第3ブロックまでの手順を反復					5点	
7	第1ブロックまでの手順を反復					中間20点	
8	部分ごと区切りながら練習						
9	8回目の復習とスピードアップ						
10	全行程通して27分でカットする					2点	
11	全行程通して25分でカットする					2点	
12	全行程通して22分でカットする					2点	
13	全行程通して20分でカットする					2点	
14	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする(チェックカット導入)					2点	
15	全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする					総合確認60点	
【特記事項】上記内容は対面登校を想定してのシラバスになる。オンライン、分散登校などの場合は2セメの最終目標到達に向けて随時内容は変更する。公欠の場合そのままにしておく授業進行についていけなくなったり、習得すべきスキルが身につかないため、自分で休んだ日の内容を次回授業まで確認・実践しておく。(体調不良での欠席等も同様)また小テストなどの実施は進行具合で変更する場合もある。小テスト・中間テスト等の際公欠だった場合は別日に別問題で再テストする。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢・飯野・鷺尾・佐々木
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水・木・金1・2・3・4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験課題を長きに渡り指導する中で合格に導くノウハウを蓄積した教員が、実技第2課題であるオールウェーブセッティング技術を合格レベルに到達させる授業を行う。美容師への第一歩となる資格試験合格へ向け前期に習得した基礎にのっとりさらに完成度の高い作品をつくる。							
【授業を通じての到達目標】							
全頭30分で仕上げる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	1年次の復習と振り返り					1	
2	1段目から3段目カールまでの復習					1	
3	4段目・5段目リフトカールの復習					1	
4	6段目メイポールカールを覚える					1	
5	7段目クロッキノールカールを覚える					1	
6	コームの使い方、姿勢、立ち位置の見直し タイムに入れる練習					1	
7	中間テスト全頭35分					20	
8	ウェーブ7段の縦幅をそろえる					2	
9	ウェーブとリッジの割れ、重なりをなくす					2	
10	左右、中央エリアと分け取り線の整え方を知る					2	
11	リフトカールのステムとシェーブ・ピンングの確認					2	
12	ウェーブとリッジの割れ、重なりをなくす					2	
13	目線を下げてピンングの位置を揃える					2	
14	定期試験に向けて課題を見つけ完成度を上げる					2	
15	定期試験 全頭30分					60	
【特記事項】 ●評価は、授業態度、忘れ物有無等も加味して総合判断する。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容実習Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	張・岡田・井坂・萩尾
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	火・木・金
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>サロンワーク ブライダル 撮影の仕事は30年以上経験し基礎技術の重要性を知る。 間違いのない基礎技術をゆっくり丁寧に学びワインディングの技術を向上させる。</p>							
<p>国家試験に向けて全頭20分で正確に仕上げられるようになる</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	正確な巻き方を確認する。全頭26分で仕上げる						
2	ブロッキング強化、配列の復習と確認。全頭25分で仕上げる					10点	
3	巻き方の間違いを治す。全頭25分で仕上げる						
4	姿勢と巻き方を意識する。全頭24分で仕上げる						
5	上巻きの強化。全頭24分で仕上げる						
6	下巻きの強化。全頭23分で仕上げる						
7	全頭23分で正確に仕上げる					20点	
8	国家試験の採点を覚える。全頭22分で仕上げる						
9	ブロッキングとセンターの強化。全頭22分で仕上げる						
10	フロント～右面の強化。全頭21分で仕上げる						
11	左面の強化。全頭21分で仕上げる						
12	姿勢の見直し。全頭20分で仕上げる					10点	
13	配列を綺麗にしていく。全頭20分で仕上げる						
14	国家試験衛生の強化。定期テスト全頭20分で仕上げる					60点	
15	巻き方の確認修正。全頭20分で仕上げる						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	文化論 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木 朋美
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	木曜日1・金曜日1・2・3・4
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
文化論教員資格認定を受けた講師が、文化論の講義をする。							
日本、西洋の理容業、美容業の歴史を理解し、さらに髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知る、これからの時代のデザインを起こすヒントを得る。美容師国家試験科目の一つであるので、意欲的に取り組み修得するものとする。							
【授業を通じての到達目標】							
日本の理容業、美容業の成り立ちを知る。日本のファッション文化史を縄文時代から現代(2010年代)まで修得する。美容師国家試験に向けて適切な記述ができるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
文化論教科書、シラバス、コマシラバス、配布プリント							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	第1章 総論 第2章 日本の理容業・美容業の歴史 1・2節						
2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史3・4節						
3	第3章 ファッション文化史 日本編 第1節 縄文・弥生・古墳時代					2	
4	第3章 ファッション文化史 日本編 第2節 古代(飛鳥・奈良・平安時代)					2	
5	第3章 ファッション文化史 日本編 第3節 中世(平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代) 第4節 近世(戦国時代末期・安土桃山時代)					2	
6	第3章 ファッション文化史 日本編 第5節 近世(江戸時代)					2	
7	第3章 ファッション文化史 日本編 第6節 近代(明治時代) 中間試験に向けた練習問題					2	
8	中間試験 <第1章 総論 ~ 第3章 第6節 近代(明治時代)までの範囲> 20問					中間試験 20点	
9	第3章 ファッション文化史 日本編 第7節 近代(大正時代) 第8節 近代(昭和20年まで)					2	
10	第3章 ファッション文化史 日本編 第9節 現代(1945年~1950年代)					2	
11	第3章 ファッション文化史 日本編 第10節 現代(1960年代~1970年代)					2	
12	第3章 ファッション文化史 日本編 第11節 現代(1980年代~1990年代)					2	
13	第3章 ファッション文化史 日本編 第11節 現代(1980年代~1990年代) 第12節 現代(2000年代~2010年代)					2	
14	定期試験に向けた練習問題						
15	定期試験 <第3章 第6節 近代(明治時代)~第12節 現代(2010年代)までの範囲> 30問					定期試験 60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	health science	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	米山 乃生子
	保健Ⅱ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科			曜日・時間	水曜日/金曜日		

【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 保健学は解剖学と生理学を合わせたような科目です。以前は「解剖生理学」という事もありました。
 私は、大学で解剖学、生理学を学び、卒業後は薬の業界から臨床へ、その後教育の場へ、同科目の教育については、登録販売者・歯科助手・歯科衛生士・美容師を育てる専門学校にて20年ほど携わって来ました。
 この科目は人体を取扱う職業人として、当たり前には持っていなければならない知識と言えます。
 美容師を目指す皆さんに必要な身体の形(構造)＝解剖学と身体の働き(機能)＝生理学を楽しみながら学んでほしいです。
 知らないことを知る！それが専門課程の勉強です。知的好奇心を全開に学習に臨んでください。

【授業を通じての到達目標】
 美容とは美しく変容させること。
 美しさとは内側と外側の連携にて表れる現象です。
 どんなに素晴らしい化粧品を使っても、肌がポロポロでは活かせません。
 疲れや悩みで表情が沈んでいては映えません。
 お客様や身近な人の健康や栄養、静養方法などの相談に応えられる美容師を目指します。

【使用教科書・教材・参考書】	【授業外における学習】
・保健学教科書 ・配布資料(化粧品の対象となる人体各部の性状、アレルギーなど)	復習を1科目1時間を目安に行う。

回	授 業 概 要	テスト配点
1	「皮膚の構造」の復習	2
2	「皮膚付属器官の構造」の復習	2
3	「毛の働き」「爪の働き」「皮膚の対外保護作用」「皮膚の温度調節作用」「皮膚の吸収作用」の復習	2
4	「皮膚と全身疾患」「皮膚と栄養」「皮膚と体内病変」「皮膚と水分と脂の状態」「皮膚・付属器官とホルモン」の復習	2
5	「接触皮膚炎(カブレ)」「血液と免疫系」の復習	2
6	「接触皮膚炎(カブレ)の検査と治療」の復習、美容師が毎日接触するアレルギー	2
7	「子どものおしゃれによる皮膚トラブル」の復習	中間テスト 20
8	「温熱・寒冷による皮膚障害」「角化異常による皮膚疾患」「色素異常による皮膚疾患」の復習	1
9	「分泌異常による皮膚疾患」「毛包炎・癬・癩」の復習	2
10	「皮膚の感染症」「感染症の皮膚疾患の予防」の復習	2
11	「胃腸・肝臓・膵臓の疾患と皮膚症状」「消化器系」の復習	2
12	「老化現象・老化を促進する環境の影響」の復習	1
13	保健学「皮膚科学」定期試験(模擬試験①)	0
14	保健学「皮膚科学」定期試験(模擬試験②)	0
15	保健学「皮膚科学」定期試験(本試験)	60

【特記事項】	【評価について】
	<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	飯野 井坂
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
						曜日・時間	月曜日
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>飯野:美容専門学校で10年以上関わってきました。複数の学校での教育経験もあります。井坂:美容室やエステサロンでの実務経験13年、講師として国試課題科目に20年以上携わった経験を活かし一人一人に合わせた指導と資格取得に導く技術と知識をお伝えします美容業界で美容師としての実務、運営、教育に20年以上かかわってきました。複数の学校での教育経験もあります。皆さんが必要となる美容師免許取得に必要な知識・技術だけでなく、将来働く際に役立つと思われる柔軟な基礎技術をお伝えします。</p> <p>目的:美容国家試験で必要とされる実技課題を製作するために欠かせない技術・理論を学ぶ。</p> <p>概要:この科目では、将来使うと思われる技術のベースとなる基礎を身につけながら、国家試験実技合格レベルに到達、美容師免許取得に欠かせない重要な基本的スキルである。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
規定タイム内で、国家試験に合格できる作品を作れるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				前回授業内容の復習。前回目標に到達できなかった場合は復習しながら到達できるようにしておく。(欠席・公欠などの場合も同様)			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)					1点	
2	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)					1点	
3	国試第二課題 部分練習・全頭練習(WDかAWIは状況を見て告知)					1点	
4	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
5	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
6	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
7	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習					1点	
8	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認					1点	
9	国試第二課題に決まった課題の 部分・全頭練習 模試に向けて衛生の確認					1点	
10	模試振り返り 弱点強化					1点	
11	次回模試に向けての練習					2点	
12	次回模試に向けての練習					2点	
13	模試振り返り 弱点強化					2点	
14	次回模試に向けての練習					2点	
15	次回模試に向けての練習					2点	
【特記事項】				【評価について】			
<p>模擬試験の結果を中間・総合確認試験の点数に反映する。 授業内容はWD、AW、国試カットの3課題の通常授業での進行状況により、課題を入れ替えて行うものとする。</p>				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	就職講座 I	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	尾崎・長谷川・安和・松岡・大塚
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	1組(金)2.4組(木)3組(木)5組(水)
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>サロンでの実務経験のある職員が、就職活動に必要なスキル・国家試験に対する取り組み方などをグループワークを通して授業展開を実施する。美容師(職業人)として必要な身構え・気構え・心構えを理解し、目標に向けて、行動する事が出来る。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>国家試験への意欲を高め、授業に臨む姿勢をつくることできる。 就職活動が活発になり、意欲的に取り組むことができる。 学校行事を通して目標設定やスケジュール管理を行えるようになる。国家試験の概要を理解し、必要な知識を身につけていく。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	自己紹介・シラバス確認・面談について・面接練習予約について						
2	就職について(活動状況表・スケジュール)・ITリテラシー						
3	就職関係(履歴書作成)・自己分析(自分史作成・自己PR)						
4	就職関係(封筒宛名書き方・電話DMマナー・活動ルール)						
5	就職関係(履歴書作成)・お礼状の書き方					小テスト(10点満点)	
6	就職関係(履歴書作成)・業界講話						
7	中間テスト(筆記模試問題)					中間試験20点	
8	敬語問題・就職関係(履歴書作成)						
9	就職活動(履歴書作成)						
10	一般常識・就職関係(履歴書作成)						
11	未内定者オリエンテーションについて・就職関係(履歴書作成)					小テスト国家試験問題(10点満点)	
12	マネー教育						
13	1・2年生交流会						
14	1・3年生交流会						
15	国試筆記模試問題					定期試験60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	池田
学科・コース	美容師科	授業 形態	筆記座学	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火 木
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
池田: サロンでのサロンワーク実務20年以上、サロンでのお客様とのコミュニケーションの取り方や、話し方などサロンワークに必要な技術を、サロンと同じ教室を使い指導します。教員資格を持ち現場の技術や体験をわかりやすく指導します。講師歴13年。知識、感性、経験を学生に伝えます。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師国家試験の合格を目指し、各分野の美容技術を理解できるようになる。国家試験問題に対応できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
初回美容技術理論Ⅱ教科書2冊、筆記用具類(蛍光マーカー含む)、ノート							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	12章 花嫁、着付け						
2	12章 着付け						
3	着付け復習、11章日本髪					5点	
4	11章 日本髪						
5	10章 メイクアップ概論、道具、ベースメイクアップ						
6	10章 各部メイクアップ、まつ毛エクステンション					5点	
7	今までの振り返り、復習、中間テストに向けて確認						
8	中間テスト					20点	
9	中間テスト振り返り、復習、確認						
10	9章ネイル技術、概論、道具						
11	9章ネイル技術手順、ネイル技術注意事項、まとめ					5点	
12	8章エステティック概論						
13	8章エステティック、復習					5点	
14	今までの復習、振り返り、定期試験対策						
15	定期試験					60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。 			

科目名 (英)	cosmetic chemistry 化粧品化学 I	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	浅川
	学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容サロンで美容師として30年以上勤務した経験を活かし、実際に扱う製品の例を紹介しながら分かりやすく説明します。美容師国家試験合格の為だけではなく、職業上、必ず使用する化粧品の知識は大切である事を伝えます。							
【授業を通じての到達目標】							
<p>美容とは美しく容姿させること。 美しさは内側と外側の連携にて表れる現象です。 素晴らしい化粧品を使っても、適切な使用方法やどんな化粧品がその方に必要なかを知らないでは本領を発揮することはできません。 また、疲れや悩み、栄養不良、病気などで表情が沈んでいては映えません。 お客様や身近な人の「人を美化し、容姿を変え、魅力を増す」ための化粧品の知識と健康や栄養、静養方法などの相談に応えられる美容師を目指します。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・化粧品化学教科書 ・配布資料(化粧品を理解するための基礎化学)				復習を1科目1時間を目安に行う。			
回	授業概要					テスト配点	
1	化粧品概論、物質の構成					1	
2	化粧品の使用による症状、化学結合、物質の量と変化					1	
3	化粧品の定義と法規制、溶液とその性質					2	
4	化粧品の安全性と安定性、コロイド					1	
5	化粧品の成り立ち、酸と塩基の性質、中和反応と塩					1	
6	水と親水性溶媒、酸化・還元反応					2	
7	油性原料①、有機化合物と無機化合物					中間テスト 20	
8	油性原料②、低分子化合物					2	
9	界面活性剤①、高分子化合物①					1	
10	界面活性剤②、高分子化合物②					2	
11	高分子化合物、光(太陽光線)					2	
12	色材					2	
13	香料					1	
14	製品を安定させる配合成分					2	
15	定期試験					60	
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	衛生管理Ⅱ (Hygiene)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	鈴木久美子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	火曜日1～4限・水曜日1限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
鈴木:美容専門学校卒業。数年間のサロンワークを経験後現在は各撮影やブライダルのヘアメイク業務に携わっています。将来皆さんが美容業に就くにあたっていろいろと参考になる知識や現在の状況、情報をお伝えする事ができます。 目的:不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて行う美容業務。その業務に就くうえで個人としての衛生を保つ事は元より、感染症の予防、衛生措置の重要性を学ぶ。							
【授業を通じての到達目標】							
衛生管理の意義と本質を明らかにする。国家試験科目でもあるため、各項目の重要点をまとめたプリントや問題集を用いてより理解を深める。また、問題集等を利用して苦手箇所を反復し克服する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
日本理容美容教育センター発行『衛生管理』教科書、プリント、問題集等							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	講師自己紹介、オリエンテーション、授業科目の概要や進め方、感染症《歴史、法律上の分類》						
2	フィードバック・病原微生物						
3	フィードバック・病原微生物、細菌《種類、大きさ、構造》・小テスト					4点	
4	フィードバック・病原微生物、《増殖と環境の影響》						
5	フィードバック・感染症の予防《汚染、感染、発病》・小テスト					4点	
6	フィードバック・感染症の予防《常在細菌叢、予防接種》中間テスト対策・小テスト					2点	
7	中間テスト					20点	
8	中間テスト解答解説・感染症予防						
9	感染症の予防《汚染、感染、発病》・小テスト					4点	
10	フィードバック・感染症の発生要因						
11	フィードバック・感染症予防の3原則・小テスト					4点	
12	フィードバック・主な感染症1・2						
13	フィードバック・主な感染症3・4 定期テスト対策・小テスト					2点	
14	定期試験					60点	
15	定期試験解答解説・総復習						
【特記事項】毎回必ず名札を付けること。中間・期末試験時は学生証も持参すること。毎回 教科書・プリント記入にあたり筆記用具(マーカー含む)、デバイスを必ず持参すること。				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			